

2019年度 第1四半期決算 Conference Call

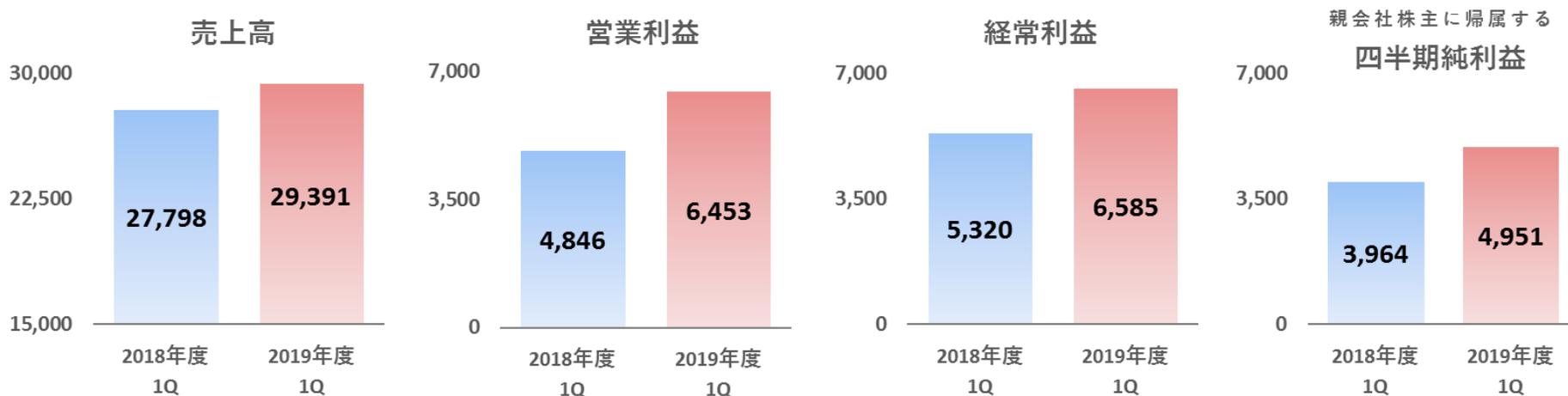
2019年8月7日
日本新薬株式会社

2019年度第1四半期概要



◆ 売上高	:	29,391百万円	(対前年同期比 +5.7%)
◆ 営業利益	:	6,453百万円	(対前年同期比+33.1%)
◆ 経常利益	:	6,585百万円	(対前年同期比+23.8%)
◆ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	:	4,951百万円	(対前年同期比+24.9%)

(百万円)



医薬品売上の内訳



(百万円)	2018年度1Q		2019年度1Q		差異	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
医薬品	19,630	81.5%	20,365	79.4%	+734	+3.7%
工業所有権等収益	3,092	12.9%	3,822	14.9%	+730	+23.6%
共同販促収入	1,337	5.6%	1,464	5.7%	+127	+9.6%
医薬品合計	24,060	100.0%	25,652	100.0%	+1,592	+6.6%

新製品群の伸長や工業所有権等収益、共同販促収入の増加により
6.6%の増収となりました。

注力領域の売上進捗



(百万円)

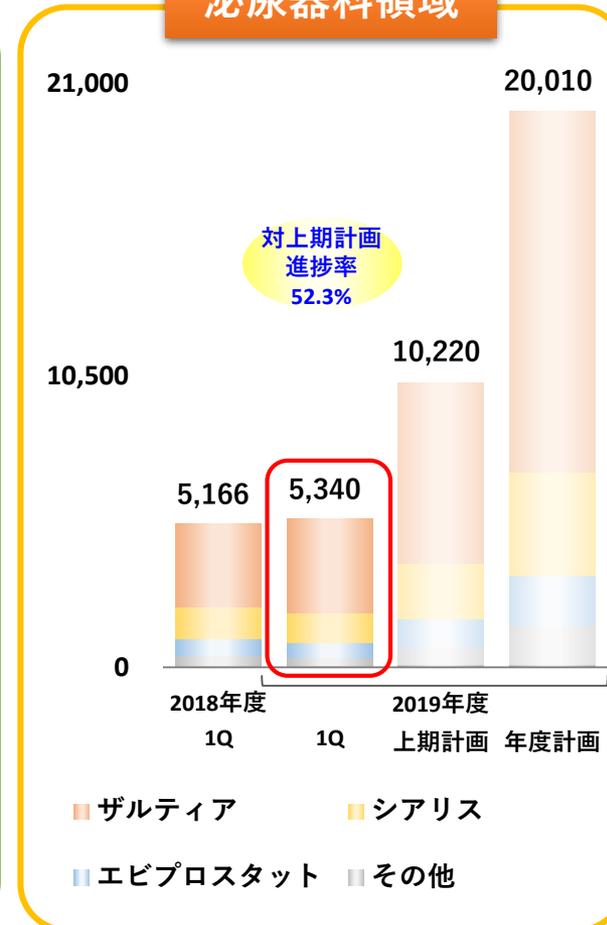
PAH領域



血液がん領域



泌尿器科領域



注力領域の売上は上期計画に沿って順調に進捗しています。

機能食品売上の内訳



(百万円)	2018年度1Q		2019年度1Q		差異	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
プロテイン製剤	2,519	67.4%	2,491	66.6%	△ 27	△ 1.1%
品質安定保存剤	563	15.1%	570	15.3%	+6	+1.2%
健康食品素材	281	7.5%	277	7.4%	△ 4	△ 1.6%
その他	373	10.0%	400	10.7%	+26	+7.1%
機能食品合計	3,738	100.0%	3,739	100.0%	+0	+0.0%

営業利益



(百万円)	2018年度1Q		2019年度1Q		差異	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	27,798	100.0%	29,391	100.0%	+1,593	+5.7%
(医薬品)	(24,060)	(86.6%)	(25,652)	(87.3%)	(+1,592)	(+6.6%)
(機能食品)	(3,738)	(13.4%)	(3,739)	(12.7%)	(+0)	(+0.0%)
営業費用	22,951	82.6%	22,938	78.0%	△12	△0.1%
売上原価	13,220	47.6%	13,300	45.3%	+80	+0.6%
販売費及び一般管理費	6,665	24.0%	6,668	22.6%	+3	+0.1%
研究開発費	3,065	11.0%	2,969	10.1%	△96	△3.2%
営業利益	4,846	17.4%	6,453	22.0%	+1,606	+33.1%

親会社株主に帰属する四半期純利益



(百万円)	2018年度1Q 実績	2019年度1Q 実績	差異	増減率
営業利益	4,846	6,453	+1,606	+33.1%
営業外収益	582	455	△ 126	△ 21.8%
営業外費用	108	323	+214	+197.9%
経常利益	5,320	6,585	+1,264	+23.8%
法人税等	1,356	1,634	+277	+20.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,964	4,951	+987	+24.9%

2019年度 連結業績予想



(百万円)	2018年度		2019年度			
	1 Q 実績	年度 実績	1 Q 実績	対上期 進捗率	上期 予想	年度 予想
売上高	27,798	114,716	29,391	51.6%	57,000	116,000
（医薬品）	(24,060)	(100,223)	(25,652)	(51.7%)	(49,600)	(101,100)
（機能食品）	(3,738)	(14,492)	(3,739)	(50.5%)	(7,400)	(14,900)
営業利益	4,846	20,644	6,453	64.5%	10,000	21,000
経常利益	5,320	21,540	6,585	61.5%	10,700	22,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,964	16,302	4,951	60.4%	8,200	16,500

医薬品・機能食品売上高、各利益ともに
上期計画、年度計画に沿って順調に進捗しています。

研究開発の進捗状況

新製品開発状況 (国内)



開発品目	申請区分	適応症等	開発準備中	PI	PII	PIII	発売準備中
NS-73 (テ`フイブ`ロフト`ナリウム) (導入)	新成分	肝類洞閉塞症候群/ 肝中心静脈閉塞症 (治療)					2019年6月 承認
	新効能	肝類洞閉塞症候群/ 肝中心静脈閉塞症 (予防)					
NS-32 (導入)	新成分	鉄欠乏性貧血					
ZX008 (導入)	新成分	ドラベ症候群 レノックス・ガス-症候群					
NS-304 (セレキシパ`グ`) (自社)	新効能	慢性血栓性 肺高血圧症					
		閉塞性動脈硬化症					
		腰部脊柱管狭窄					
NS-580 (自社)	新成分	子宮内膜症					
NS-17 (アザ`シジン) (導入)	新効能	急性骨髄性白血病					
NS-065/NCNP-01 (ビ`ルトラゼン) (自社)	新成分	デュシェンヌ型 筋ジストロフィー					
NS-87 (導入)	新成分	二次性 急性骨髄性白血病			PI/II 準備中		
NS-917 (導入)	新成分	再発・難治性 急性骨髄性白血病					

■ : 2018年度通期決算時からの変更箇所

新製品開発状況 (海外)



開発品目	申請区分	適応症等	開発準備中	PI	PII	PIII	申請中	
プルリフロキサシン (自社)	新成分	合成抗菌剤	[Blue bar]					
NS-304 (セレキシパゲ) (自社)	新効能	慢性血栓塞栓性 肺高血圧症	[Blue bar]					
NS-065/NCNP-01 (ビルトラルセン) (自社)	新成分	デュシェンヌ型 筋ジストロフィー	[Blue bar]					
NS-018 (自社)	新成分	骨髄線維症	[Blue bar]					

NS-065/NCNP-01につきましては、
米国で段階的承認申請を実施中です。

参考資料

財政状況



(百万円)	2018年度	2019年度	差異		2018年度	2019年度	差異
	期末実績	1Q実績			期末実績	1Q実績	
資産の部	168,763	168,934	+170	負債の部	33,572	32,626	△ 945
(流動資産)	110,720	110,657	△ 63	(流動負債)	25,406	24,846	△ 560
(固定資産)	58,042	58,276	+233	(固定負債)	8,165	7,780	△ 385
				純資産の部	135,190	136,307	+1,116
合計	168,763	168,934	+170	合計	168,763	168,934	+170

= 資産の部 =

現金及び預金	+ 332
受取手形及び売掛金	△ 481
有価証券	△ 490
たな卸資産	△ 168
投資有価証券	△ 1,664
長期前払費用	+ 959

= 負債・純資産の部 =

支払手形及び買掛金	+ 549
未払金	△ 883
未払法人税等	△ 1,698
賞与引当金	+ 1,451
利益剰余金	+ 2,189

NS-73 (デフィブロチドナトリウム)

－肝類洞閉塞症候群 (肝中心静脈閉塞症) 治療剤－



開発段階 : 発売準備中 (治療)

PⅢ試験 (予防)

開発形態 : 自社開発 (治療)

ジャズ・ファーマシューティカルズ社と共同開発 (予防)

2017/3 ジャズ・ファーマシューティカルズ社より導入

作用機序 : 血管内皮保護作用、凝固および線溶系の
バランスの正常化

適応症 : 肝類洞閉塞症候群 (SOS) / 肝中心静脈閉塞症 (VOD) *

*造血細胞移植後の重篤な合併症で、
重症化した場合は高い死亡率を示す

剤型 : 注射剤

特徴 :

- ・ SOS/VOD患者の生存率を上昇させた初の薬剤
- ・ 世界各国で発売中
- ・ SOS/VODの予防を適応とする初の薬剤



— 二次性急性骨髄性白血病治療剤 —

開発段階：PI/II試験 準備中

開発形態：自社開発

2017/3 ジャズ・ファーマシューティカルズ社
より導入

作用機序：抗腫瘍効果

適応症：二次性急性骨髄性白血病（二次性AML）

剤型：注射剤

特徴：
・シタラビンとダウノルビシンのリポソーム製剤
・国内初の二次性AML治療剤で、骨髄に集積し易い性質により、高い有効性と副作用の低減が期待される

将来見通しに関する注意事項

- ▶本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらの文書は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文書とは異なる現実的な結論、結果を招きうる不確実性に基づくものです。
- ▶それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、貨幣為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了ならびに中止、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関からの承認取得、国内外の社会保障制度関連改革、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- ▶また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を欠く状況、原材料の入手困難、他社との競合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- ▶新しい情報、将来の出来事もしくははその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。